

南関東支部における大会再開にあたっての留意点

リトルシニア関東連盟 南関東支部

競技部長 土岐 一寿

審判部長 渡辺 久芳

南関東支部が主催する大会は、日本リトルシニア中学硬式野球協会、ならびにリトルシニア関東連盟南関東支部が制定した「新型コロナウイルス感染拡大防止のためのガイドライン」に沿って行います。また、下記の留意点のご理解とご協力をお願いいたします。

【試合前】

- ① 各グラウンド状況に応じてソーシャルディスタンスを考慮し、日本協会、ならびに関東連盟の指針に沿って試合を運営しますが、グラウンド状況や天候などにより変更が生じる場合があるため、責任役員、責任審判員の判断の基、適宜実施することとします。
- ② 監督はグラウンド到着後、速やかに以下の6点を本部席に提出願います。なお、ハンドソープやアルコール消毒液など、ガイドライン、ならびに関東連盟通達（6月25日付：対外試合再開について）に記載されている必要なものは、監督の責任において必ず持参してください。
※6点：「1. メンバー表（5枚綴り）」「2. 選手登録カード」「3. 指導者登録カード」「4. 指導者講習カード」
「5. 投球回数確認シート」「6. 新型コロナウイルス感染防止対策チェックリスト」
※選手登録カードがない選手、ならびに指導者登録カードがない監督及び、コーチはベンチに入れません。
- ③ 選手及び、指導者のメンバー表との審査は、マスク着用の上、選手間の距離を取り実施します。
- ④ 用具点検時の審判員、ならびに役員はマスクを着用する。また、チームでは用具のアルコール消毒を適宜実施願います。2試合目以降の選手審査・用具点検のタイミングは、各試合会場で判断のうえ実施します。
- ⑤ メガホンは試合前後及び、試合中の監督、応援席を問わず、一切の使用を当面禁止とします。
- ⑥ 試合球は対戦チームで拠出願います。ロジンは責任審判員が持参し、運用は各試合会場で判断とします。

【試合中】

- ① シートロック時の監督及び、コーチは、マスクの着用を義務付けないこととします。
- ② 試合前後の整列は、それぞれのベンチ前に整列し、声を出さずに挨拶することとします（審判員はホームベース付近に整列）。
- ③ ベンチ内の密を回避するため、ベンチの外にパイプ椅子等を置き、防球ネットを設置するなど安全対策を施したうえで、サブベンチを設営する場合がありますが、サブベンチもベンチと同様の扱いであり、理由もなく外に出ることを禁止します。
- ④ ベンチ内では、選手、監督、コーチ、スコアラーはマスクを着用願います。また、チーム関係者、保護者等もマスクを着用願います。
- ⑤ ベンチ前での円陣はできる限り控え、行う場合は選手間の距離を十分にとるよう願います。
- ⑥ 握手、ハイタッチは禁止とし、マウンド上に集まるときはグラブを口に当てる等の工夫をお願いします。
- ⑦ 球審は、原則マスク着用としますが、熱中症防止のため球審用マスクカバー（シールドカバー）やジョギング用フェイスマスク等で代用する場合があります。塁審は野手・走者と一定の距離を保てることから、飛沫感染のリスクが低いと見做すため、マスクの着用は必須としないこととします。
- ⑧ 球審については、気温・気候等により複数名にて対応する場合があります。
- ⑨ 予選リーグの自チームの試合には、天候やグラウンド状況によって、チーム審判員1名を出場要請する場合があります。審判員ユニフォーム一式を持参。着用の上出場。

【投手の投球制限】

- ・投球回数制限については、従前と変更なく『中学生投手の投球制限に関する統一ガイドライン』に基づいて運用します。

【公認野球規則】・・・2020年公認野球規則の主な改正点

① 投手の“二段モーション”の罰則について

事例1 「投球動作を開始して、自由な足を上げ下げして、そのまま投球した」

⇒ボークの適用無しに改正<規則：5.07(a)(1)(2)、6.02(a)(1)>

事例2 「投球動作を開始して、自由な足を上げ下げしてから、塁に送球投球した」

⇒ボーク適用のまま<規則：5.07(a)(1)(2)、6.02(a)(1)>

事例3 「投球動作を開始して自由な足を上げ、いったん動作が止まったが、そのまま投球した」

⇒ボーク適用のまま<規則：5.07(a)(1)(2)、6.02(a)(1)>

事例4 「ストレッチをしようとして動作を開始したが、途中でやめた」

⇒ボーク適用のまま<規則：5.07(a)(2)、6.02(a)(1)>

② 守備妨害の適用について・・・「打球が走者に触れた場合」

○走者が、フェアボールに、フェア地域で触れた場合。<規則：5.09(b)(7)>

○野手に触れていないフェアボールが、フェア地域で走者に触れた場合。<規則：6.01(a)(11)>

- ・昨年までは、内野手を通過した打球に対して他のいずれの内野手も守備する機会がなかった場合は、打球に触れたという理由でアウトにならなかった。
- ・2020年の改正は、「走者が、フェアボールに、フェア地域で触れた場合」は原則として、二つの例外を除いてすべてアウトになることになり、打球が内野手を通過したかどうかは問わないことになった。

※二つの例外

(A) いったん内野手（投手を含む）に触れたフェアボールに触れた場合。

(B) ひとりの内野手（投手を除く）に触れないで、その股間または側方を通過したフェアボールに、すぐその後方で触れても、この打球に対して、他のいずれの内野手も守備する機会がなかったと審判員が判断した場合。

【その他】

- ① 各試合会場でのお茶等の用意は不要です。役員、審判員は自らの飲み物、昼食、タオル等を持参し自己責任・自己完結とします。
- ② チームごとに、新型コロナウイルス感染防止策を講じ、指導者、選手、保護者に周知し、監督が責任を持って実行していただきますようお願いします。
- ③ 試合中の応援は、マスクを着用し、大きな声を出さずに飛沫感染予防に努めてください。全員での合唱などは禁止とし、できるだけ拍手までとします。
- ④ 感染のリスクを極力抑えるよう万全な対策を講じて大会運営を行います。感染経路が不明の場合や科学的証明も出来ないことから完全ではありませんので、リスクをご承知の上、各自の責任においてご参加ください。したがって、大会期間中、万が一感染者が発生した場合、大会本部は一切の責任を負えない事をお含み置きください。

以上